

# 言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (呉市立川尻小学校)

- ① 教科等 道徳 ② 学年 第2学年
- ③ 主題名 (資料名) やり抜く心 (1 - (2) 勤勉努力)  
 (「ぴよんたくんのゴール」[山本由紀子作 出典:『2年生のどうとく』(文溪堂)])
- ④ 本時のねらい こりんちゃんの背中をじっと見つめ、再び走り始めたぴよんたくんの気持ちを考えることを通して、自分がやらなければならないことを最後までやり抜こうとする心情を育てる。
- ⑤ 学習の流れ (1時間目/全1時間)

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価の観点 (評価方法)
1 自分の得意なことを発表する。 ○自分の得意なことは何ですか。  2 資料「ぴよんたくんのゴール」を読んで、話し合う。 ○ぴよんたくんは、ころくに抜かされて、足を止めたとき、どんなことを考えたでしょう。	・児童それぞれが得意に思っていることをアンケートで把握しておく。  ・ペープサートを使って、臨場感を出す。  ・内容を把握しやすいように場面絵と短冊を掲示する。	・困難や失敗にあっても、最後までしっかりとやり抜こうとする気持ちを自分なりにもつことができたか。 [主人公の心情についての思考・表現] (ワークシート, 行動観察, 発言)
◎もう一度走り出したとき、ぴよんたくんはどんな気持ちだったでしょう。	・役割演技の際、うさぎのお面等を頭にかぶせ、ぴよんたくんの気持ちを想像して発言できるようにさせる。 ・自分は何の考えに近いのかを考えながら話し合い活動をさせる。	
○さいごまで走ることができたぴよんたくんは、どんな気持ちだったでしょう。	・最後のゴールとなったが、走りきれたぴよんたくんの喜びに共感させる。	
3 話し合いの内容を振り返り、自己の変容について考える。 ○友達の話聞いて、分かったことを発表しよう。  4 教師の説話を聞く。	・経験も引き出し、自分に重ね合わせて考えさせる。	

## 設定した言語活動を通して育てたい力

- 感受性を豊かに働かせ、登場人物の気持ちを考えて表現することができる。
- 自分とは異なる感じ方や考え方を受け止め、ねらいとする道徳的価値に気付き、深く感じたり考えたりすることができる。

## 言語活動の充実のための指導の工夫

- 言葉だけでなく、動作や表情などでも自分の考えを表現するよう言葉かけをする。
- 自分の思いや考えを再構成できるような効果的な話し合いとなるように、児童の発言を整理し類型化した板書を工夫し、話し合いに生かしていく。